

1. 「学習成果の可視化」に向けた取り組み

(1) 現状の説明

① AP(大学教育再生加速プログラム)事業推進のために、3つのアセスメント科目(「健康と生活」「成人看護慢性期援助論Ⅱ」「看護実践統合実習」)を選定した。AP推進本部と看護学部AP推進チームおよび看護学部FD委員会APグループとの会議等を経てアセスメント科目を選定した。その選定にあたり、多くの学生が受講する必修科目を選ぶこと、「自己評価ルーブリックが学生の汎用的能力の伸長を確かめる道しるべ」であることを確認した。その上で、アセスメント科目は看護師教育のプロセスを考慮し、初年時のマイルストーン科目は看護の対象となる人間について生活と健康の視点から総合的に捉える内容であること、最終段階のアセスメント科目(キャップストーン)は卒業時に求められる能力を最も反映させることができる内容であること、その中間であるタッチストーン科目は、専門科目の一つであり臨地実習前の学内での演習科目とすること、等を選定の目安とした。なお、自己評価ルーブリックに看護学部追加項目「看護師へのキャリア成熟性」を加え、入学時から卒業時への変化を捉えることとした。

② 看護学部設置申請書(ア.看護学部設置の趣旨および必要性 3.育成する人材の到達目標とそのアセスメント (2)人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護実践を身につける の項)に「看護実践能力のアセスメントのための基準として、・・・本学における卒業時到達目標を明示する。この基準にのっとり、・・・多面的な観点を持った評価表に基づき、看護実践能力をアセスメントする。」と記載している。このように「人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護実践能力を身につけた」人材の養成のために「看護実践能力のアセスメント」ツールのひとつとして「臨地実習看護技術到達度チェックリスト」を学部看護技術検討委員会で試作した。これは同委員会での検討、教務委員会での意見聴取を経て試作したものである(資料添付)。

③ 「カリキュラムマップ」作りを目指して、各科目の到達目標がカリキュラム・ポリシーのどの項目に合致するかについてのアンケートを、実施し集計した(資料添付)。

(2) 点検・評価

① 効果が上がっている事項

3つのアセスメント科目を決定したことで、学習成果の可視化への第一歩を進めた。各科目の到達目標とカリキュラム・ポリシーの関連についてのアンケートを、実施し集計したことで、カリキュラム・ポリシーに示される各項目を達成するための科目数の多寡が明らかになった。

② 改善が必要な事項

「学習成果の可視化」に向けた取り組みを、引き続き検討し、具体化していくことが

必要である。

(3) 将来に向けた発展展望

- ① 新年度から 3 つのアセスメント科目を中心に、自己評価ルーブリックを用いて、学習成果の可視化を目指していく。
- ② 技術に留まらない「看護実践能力のアセスメントの基準」の作成を行っていく。
- ③ 非常勤講師担当科目も今後アンケート調査し、これをカリキュラム改善に資する資料のひとつにする。

2. 認証評価結果に関する事項(努力課題等の指摘事項はなし)

教育方法の改善への取り組み

(1) 現状の説明

- ① 2015年3月23日10時～11時30分、教員28名の参加で「シラバス共有FDカフェ」を行った。各科目担当者がシラバスを持ち寄り、学生にとって活用しやすいシラバスの構成や書き方、さらに主体的学びに役立つ授業作り等、種々意見交換を行った。
- ② 9月1日10時～12時、教員28名の参加で「第2回看護教育学習会」を行った。グループ討議形式で、各領域の実習概要と看護過程の教授内容について共有すると共に、1クール目の実習における課題や学生の傾向を情報共有した。
- ③ 9月7日～8日に教員11名が参加し「第1回看護学部AP研修」を行った。授業設計の方法や学生主体の能動的学習方法の展開などについて、演習を行ないながら相互に学んだ。
- ④ 2016年1月19日17時～18時30分、教員23名の参加で「看護学部AP事業説明会」を開催した。AP推進本部の関田 CETL センター長から全学AP事業の目的や経過報告がなされ、次いで、看護学部AP推進チームから今後の具体的取り組みについて説明し、質疑応答を行なった。
- ⑤ 2016年3月1日10時～11時30分、教員23名、参与1名の参加で、「領域別実習における学生の実践と成長および課題を語る交流会(各グループで対話)」を開催した。3年次後期の領域実習・基礎看護学実習Ⅱでの、学生の実習状況や指導上の課題・「生きる力を引き出す看護」にかける思いやそこから生まれる実践を振り返る中で、学生の成長のスピードが一人一人異なること、目的・目標の達成度だけでなくその学生の学びや4年間かけて成長していくことを大事にして関わることの大切さなどを語り合った。
- ⑥ 2016年3月11日13時～16時30分、「学生の可能性を信じ、限りない能力を共に引き出す実習指導」とのテーマで臨地実習指導者研修会を開催した。教員22名、助手4名、実習施設関係者91名が参加した。講演会(講師：神奈川県立保健福祉大学加納佳代子教授)と意見交換会(実習指導の振り返り)を実施した。

(2) 点検・評価

- ① 効果が上がっている事項

- i. シラバス、実習概要、看護過程教授内容、実習における課題などの共有が着実に進んでいるのは評価できる。看護教育学習会を開催し、対話により教員各自が実習指導上の示唆を得る機会を設けた。
- ii. AP事業内容の理解と周知のために、AP推進本部の支援を受け、またAPグループとの意見交換等も度々行なった。さらにアセスメント科目担当者との情報交換等により、実際の活動イメージを作りながら、科目内での取り組みの見通しをもつことができた。

② 改善が必要な事項

アセスメント科目担当者とAPグループとの連携が課題としては、挙げられる。

(3) 将来に向けた発展展望

- ① 学部FD企画については、教育ニーズに沿ったものを今後も検討・実施していく。
- ② 今後のFD活動としては、看護学部設置申請書にある助手の実習指導力向上および教育・研究力向上のために、教育プログラムを立案し、実施及び評価を行なっていきたい。
- ③ AP活動は、アセスメント科目実施年度に入るため、学部全体で協力してスムーズな事業推進を行っていく。
- ④ アセスメント科目担当者とAPグループとの協力体制を作っていく。

3. 教職課程(該当なし)

4. その他

- ① 2016年3月26日27日に第2回看護学部AP研修を予定している。
- ② 2016年3月28日29日実施の文学部中心のAP研修にも一部看護学部教員が参加予定である。